

【歴史】 初代山形県令三島通庸の佩刀

三島通庸（1835～1888）は今から150年前の明治6年（1874）、酒田県令に就任しました。明治8年（1876）には初代山形県令に任命され、山形県の近代化や産業振興に尽力しました。当館には三島通庸所有の佩刀が収蔵されています。佩刀は警視總監就任時に帯刀したものと伝えられ、刀身は日本刀ですが、外装はサーベル（洋刀）の拵えになっています。



三島通庸佩刀（館蔵）

【地学】 山形の自然史

令和6年プライム企画展のテーマである、「自然史」にフォーカスして、山形県に関連する自然史資料の中から、新規収蔵および再展示する資料を中心に化石・岩石・鉱物を展示します。自然史＝ナチュラルヒストリーを体験してみてください。



須川埋没林の化石木（館蔵）

【民俗】 玩具と知育

玩具には子どもをあやしたり、素質を養育したり様々な目的があります。簡単な作りに見える昔のおもちゃも、仕組みやデザインを通して子ども達の感性を育ててきました。知育の観点から見た玩具の移り変わりをぜひご覧ください。



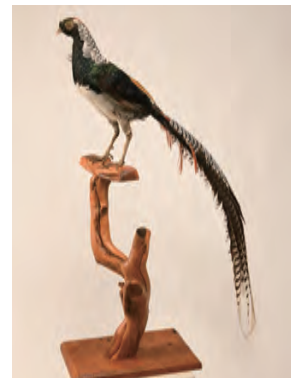
知育玩具（館蔵）

【動物】 新規収蔵資料の紹介

動物部門は今年度も多くの資料の寄贈を受け、中でも山形県立博物館で保管されていたハイイロオオカミのはく製は必見です。ニホンオオカミは絶滅してしまいましたが、ハイイロオオカミは大陸に生息しています。そのオオカミの雄大さをぜひ見に来てください。その他にも、タイマイやギンケイ、ゴマフアザラシのはく製など、普段展示していないはく製を展示してお待ちしております。



タイマイ（新収蔵）



ギンケイ（新収蔵）

【植物】 新収蔵・山形大学農学部植物標本コレクション（仮）

昨年連続テレビ小説にて脚光を浴びた植物標本の世界。今年度、山形大学農学部保管されていた植物標本コレクションが県立博物館に移管されることとなりました。古いものは戦前に作製され、庄内地域のみならず全国各地の植物を集めた標本は数千点に上ります。一部には「牧野富太郎」作製の標本も含まれており、研究資料として大変価値の高いコレクションとなります。



キツネヤナギ（新収蔵・展示予定）

【考古】 縄文人の祈りの形ー上山市牧野遺跡

今回の展示では、縄文時代中期の集落跡であった上山市牧野（まぎの）遺跡を取り上げ、そこから出土した「土偶」や「三脚土製品」などの祭祀道具に注目して参ります。特に土偶を簡略化したものとされる「三脚土製品」は、今回初展示となります。ぜひ縄文人の祈りの風景をイメージしながらご覧ください。



三脚土製品（館蔵）

【教育】 寺子屋で使用された女子の教科書

男子と女子が違う場所で学んでいた寺子屋では、習い始めは「いろは」や「数の数え方」「手紙の書き方」など共通の教科書を使用していましたが、次第にそれぞれの特徴を持った教科書を使用しました。今回は、女子が学んだ様々な教科書を展示して、身近な家庭的な事柄から古典教養などまで、さまざまな内容の特徴を感じていただきたいと思います。



『七ついろは』（館蔵）